「座る」
人生に
彩りを。

01

https://exgel.jp/jpn/lp/suwaru/

@exgel_seating_lab @EXGELOfficial @ExgelSeatingLab

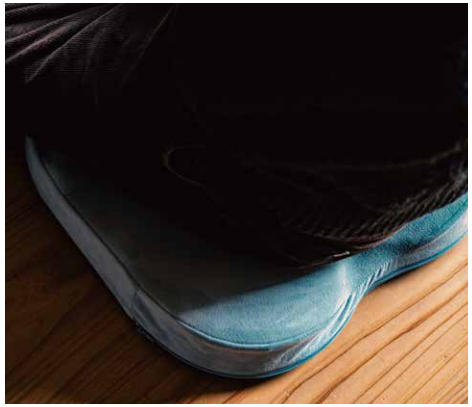
本誌内の記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用を禁じます。すべての著作権は株式会社加地に帰属します。 © 2024 KAJI CORPORATION

EXGEL SEATING LAB

「座る」
人生に
彩りを。

座る × つくる

誰かの心に残るモノを。
誰かと共に過ごす時間を。
誰かが開く新しい可能性を。
様々な「つくる」を彩る、それぞれの「座る」を探る。



座る人　01

山本 源太
陶芸家

良い座りが正す
創作への姿勢

福岡県は星野村。青々とした茶畑を眺めつつ山道を進むと、建ち並ぶ民家の中に、1本の煙突が現れます。そこにいたのは、陶芸家かつ詩人でもある山本さんです。まだ陶芸の専門教育機関もない時代。山本さんは自ら陶芸家のもとへ弟子入りし、その技を習得していきました。そして26歳のとき、後継者がおらず80年間途絶えていた星野焼を再興させるため、縁もゆかりもなかった福岡県へ単身やってきたのでした。手探りで郷土の土などを追及しつづけ、ついに再興に成功。お茶を注ぐと、まるで夕日に照らされたように器の内側が黄金に輝くという特殊な技法を再現するまでにいたります。それから50年以上が経ちました。腰をあげ、体重をかけ繰り返し粘土を練る。ろくろの前に座り、前傾姿勢のまま力を加え、器の姿に変えていく。そこには熟練の技が詰まっています。年齢を重ねても変わらない全身の力強さを保ち続けるため、「座る」にも試行錯誤したのだとか。以前は低反発のクッションと綿のものを2枚重ねて使用したのだと言います。「前のめりの姿勢を続けるから、若い頃と比べるとお尻と腰にかかる負担が増えて、座っていることが苦痛に感じる。クッションは柔らかすぎても硬すぎても意味が無いからね。」柔らかな笑顔で語る山本さんですが、ふと目の前のろくろに視線を戻すと、ひたむきに器と語り合う真剣なまなざしに一転。息を止めているかのように、じっと視線を逸らさずに陶芸や書と向き合います。
こだわり選び抜いた「座る」。そこには、山本さんの陶芸への強い思いと、何十年経っても衰えない創作への意欲、姿勢が表れています。

座る人　02

森河 智美
キャンパー

家の中、空の下。「座る」がつくる優しい家族時間

「子どもが生まれたことをきっかけに、家族みんなでできる趣味がないかと考えました。それがキャンプだったんです。」ゆらゆらとなびく焚火のそば、家族を優しいまなざしで見つめながら語るのは、女性ファミリーキャンパーの森河さん。自然の中で過ごす家族との濃厚な時間の虜になってからは、毎週キャンプに行くほどハマってしまったのだと言います。団欒の時間を大切にしたキャンプだからこそ、様々な場所、時間での「座る」が欠かせません。そんなとき、持ち運びのできるクッションが活躍します。暖かなテント内、家族みんなでゲームをする際には、ふかふかの絨毯の上に。机を囲み、時にお菓子を食べながら、子どもたちとの時間を楽しみます。子どもたちが眠った後は、アウトドア用のイスの上に。焚火を眺めながら言葉を交わすことで、慌ただしい日常からほっと一息つく夫婦の時間が生まれます。心地よく座れる場所が増えるほど、ゆったりと濃厚な家族の時間も増えていきます。もちろん「座る」が家族の時間を支えるのは、キャンプだけではありません。「授乳の時は、ずっと同じ姿勢が続くので大変なんです。上の子の授乳の時からきついとは思っていたのですが、仕方のないものだと諦めていました。3人目の子どもが生まれたタイミングで『座る』場所に気を配るようになると、ラクになりました。」きつさが軽減される分、お母さんと赤ちゃんとしての時間を心地よく過ごすことができます。
いつでも、どこでも、どんな時でも。心地よく座れる場が集いの場となり、とりとめもないけれど、なにものにも替えがたい、そんなかけがえのない時間を生み出していくのです。

座る人　03

長屋 宏和
デザイナー

「座る」の快適さが世界を開いていく

夢を追い、14歳からカーレースの世界へと足を踏み入れた長屋さん。事故にあったのは22歳の時。鈴鹿サーキットでおこなわれたレースでのことでした。突然はじまった車椅子の生活。しかし、そこで感じた不自由の数々は、長屋さんの元来の前向きでアグレッシブな性格と結びつき、新たな世界へと進む原動力となりました。「車椅子ユーザーとなってみて、それまで当たり前だったことへの制限を実感しました。床ずれが起こるのでデニムはなるべく避けなければならない。雨の日は外出が厳しい。諦めなければならないことに疑問を感じ、解決したいと思うようになりました。」その後長屋さんは会社を起ち上げ、車椅子の方専用のレインコート、ダウン、ドレスなど様々なアパレルを手掛けます。さらに、大企業も含めた様々な企業へ自ら提案をおこない、生活から不便をなくし、より楽しいものになるように働きかけ続けました。その中でも、車椅子の行動基盤となる「座る」の改善は必要不可欠でした。「歩ける人は『立つ』『歩く』などの選択肢のひとつとして『座る』があるけれど、車椅子の自分たちにとっては『座る＝活動のすべて』。だからこそ、より良い姿勢やよりお尻に負担が無いものを考えるようになりました。」活躍の幅を広げていくうえでも、普段の活動時の姿勢が正しく保たれていることは、無くてはならない要素だったと言います。
「座る」の快適さが、活動の幅を広げる。さらに新たな場所で生まれた快適さで、未知の世界に挑んでいける。活動基盤である「座る」の快適が叶えられるほど、長屋さんはさらに新しい世界をめざし、進み続けていきます。

with **EXGEL**

それぞれの「座る」にひたむきに当たり前をつくりたい

「座る」は日常的動作だからこそ、普段はそれがキツいかラクか、気にも留めない方が多いんです。歩くときには靴。寝るときは枕。同様に、苦痛を改善するためのモノとしてではなく「座るときにはクッション」を当たり前にしたい。そのために、購入時だけではなく使用時に改めて「買ってよかった」と思ってもらえるものをつくろう。開発を担当している中で、自分が一番大切にしている信念です。様々なシチュエーションの中で無理なく、幅広い方に使っていただけるよう、開発の起点はお客様の声からということも多いんです。店舗レポートやECサイトのレビューを毎日読み、「もっとこうなったらいいのに」という声があれば、既存品にも改良を重ねていく。「こんな商品があったらいいのに」という声があれば、全体の商品群を見て、その声が叶えられる新商品を開発。奇抜なカラーや特異な形で目をひくのではなく、商品を使った人に「良いものだ」と感じてもらうことが、エクスジェルの商品を他社と比較した時の一番の特徴だと言えるように。とにかく手を動かし試作を重ね、お客様の使用する様子を想定し素材から徹底的に選び抜いていきます。今後はさらに幅広く、さらに多くの方々の「座る」をより良いものにしていくために、現在の多様な生活に馴染み寄り添えるクッションを開発していきます。

商品企画担当マネージャー　井戸辺　｜　商品の企画から開発、デザインに至るまで幅広く担当

掲載商品一覧

お尻のストレスを軽減して快適に座る｜**THE OWL 3D Highest** 03

THE OWL Highest Compact 04

心地よくオシャレに座る｜**MARU PUNI** 06

MARU PUNI FIT 06

YUKA PUNI 06

YUKA PUNI FIT 06

MINI PUNI 06

正しい姿勢をサポートし車椅子でも快適に座る｜**OWL ACTIVE** 08